

第41回日本臨床矯正歯科医学会大会懇親会で

大きな感動を生んだ荒川ファミリー

第41回日本臨床矯正歯科医学会大会長 曾矢矯正歯科クリニック 曾矢猛美

公益法人日本臨床矯正歯科医学会は全国の矯正専門開業医400名以上で構成された団体です。ダウン症などのハンディキャップを持って出生された方には矯正歯科治療に健康保険が適用されます。したがって、このような治療に携わっている会員も多くいます。平成26年2月12日～13日に仙台国際センターで学術大会を開催し、前日には宮城県山元町の震災遺構に予定されている中浜小学校や鳥の海ふれあい市場を訪れる被災地応援ツアーも実施し、河北新報の記事になりました。

さて、事前の懇親会打ち合わせの際に、「知子がしゃべりだすと、皆様が急に静かになるんです。」とお父様からのお話を伺っておりましたが、荒川ファミリーのアメーzing・グレースの演奏が始まると懇親会場は水を打ったように静かになりました。そしてソレアードの知子さんの歌、またあの愛らしいしぐさと笑顔は皆様に大きな感動を呼び起こしました。最後に私のリクエストで、花は咲くの演奏もして頂き、そして演奏が終わるとスタンディングオベーションの拍手になりました。その余韻もさめないうちに特別講演を行った先生から、大会終了後に下記のメールを頂きました。

「データの整理も、文献をまとめる作業もとても楽しくひとつも苦になりません。しかし講演はどうも苦手で、自分が良くわかっていないことを大勢の日本を代表するような大先輩の前でお話ししなければならぬというのはとても難しく、準備はとても苦しく毎日がつらいものでした。前日の夜まで迷いに迷い参っていました。知子さんのリコーダーの演奏を聴いているときにふと何かが分り迷いが消えました。」

荒川ファミリーの演奏中に、へ生物学という摩訶不思議な世界に対する畏敬の念を持ち、臨床家は常に謙虚でなくてはならないというメッセージが浮かんできたのです。統計学的に有意で何倍の確率でどうなるかなどという、時には絶望的な数字に聞こえてしまうような患者さんが抱えた遺伝子という運命を超えた奇跡を、生命現象や家族の愛は現実に起こすことができるのだと確信できたことによるものではないかと思えます。要するに、荒川ファミリーのおかげで勉強になりました。」

とのメールでした。

私自身も知子さんの笑顔と愛らしいしぐさに大変魅せられました。本当に人生に對する大きな感動をありがとうございました。

←翌日の「河北新報掲載記事」です。



ツアーに参加した矯正歯科医に巨理町の被災状況を説明する渡辺校長

矯正歯科医、被災地学ぶ

「宮城・巨理、山元を視察」

公益社団法人日本臨床矯正歯科医学会（東京）に所属する矯正歯科医約110人が2月11日、東日本大震災で大きな被害が出た宮城県巨理、山元両町の被災地を視察した。

12・13日に仙台市で開く学術大会を前にツアーを企画した。震災当時に山元町坂元中学校で現在は巨理町荒浜中の渡辺裕之校長の案内で、津波で全壊した山元町中浜小を訪問。鉄筋2階の校舎が水没し、児童ら約90人が逃げて助かった屋根裏部屋など見て回った。

渡辺校長は「ここで見たことを地元に戻って伝え、忘れないでほしい」と呼び掛けた。

被災して巨理町荒浜の仮設店舗で営業中の産直施設「鳥の海ふれあい市場」にも立ち寄り、海産物や特産品を次々と購入。店頭ではツアー参加者から集めた義援金約50万円を渡辺校長に寄贈した。ことし8月に新校舎で授業を再開する、荒浜中に飾る絵画の購入費などに充てるといふ。

同会は震災遺児への無料の矯正歯科治療など支援活動を続けている。富永雪穂会長は「被災地の現状を学ぶことで、会員の支援への理解を深めたい」と意図を語った。

2014年2月12日水曜日